



大阪南東ブロック 平野支部
(株)山本建材 山本 弘司

平野区の誕生

昭和9年に平野区が誕生しました。その時「大和川」などさまざまな区名の候補が出たそうですが、結局、区内で一番大きな町でよく知られた「平野」となったそうです。平野の地名は、平安時代の武将で征夷大將軍であった坂上田村麻呂の二男である広野麻呂が、朝廷から賜った土地を、一族とともに開拓した所なので「広野」が訛って「平野」になったと伝わっています。

杭全神社平野郷夏祭り

やはり平野と聞いて思い浮かぶのは、だんじり祭りだと思います。平野区民ではなく祭りにかかわっておらず車に乗る方は、国道25号線が通れないので悪いイメージがある日かもしれません。（杭全神社氏子代表としまして謝ります。申し訳ございません）



約300年の歴史があるこの祭りは、毎年7月11日から4日間にわたって催されます。平野郷の9つの町のだんじりと各町持ち回りで太鼓台と神輿があります。7月11日は太鼓台がその年の当番町に杭全神社より担ぎ出され、祭りの始まりを知らせます。太鼓台が当番町の宿に戻るころ、平野川で神輿の足洗行事が執り行われます。

12、13日は各町のだんじりが町の中を曳行します。昼間はロープを付けて、子どもたちが、各町の掛け声で、だんじりを引っ張っています。日が暮れますと、町中提灯に火が入り勇壮なだんじりに変わります。13日は、町衆の元気、健康を杭全の神様に感謝をする、だんじりの宮入がありまして、1年の中で町全体が、最高に盛り上がる日になります。

そして、14日は神輿渡御を迎えます。杭全の神様のスサノオノミコトが、1年に一度神殿から神輿に乗って平野郷の町に出かけた神殿に還ります。



平安時代から開け、戦国時代には環濠に囲まれた自治区として繁栄した町、平野郷。環濠跡や十三口（環濠入口）の地藏堂、格子状の町割、多様な様式の町屋など、自治都市時代の面影を伝える豊富な資源があります。夏祭時期になると、瓦屋根、ふかい軒、格子戸、軒先に吊るされた提灯の火の美しさが、似合う懐かしい町が平野です。また、環濠をつくったことで、自分たちの町は、自分たちで守り、発展させるという風土があり、自立を育ませてくれる自慢の町です。

神道の国日本は全国津々浦々神社あり。春夏秋冬、神社の祭りでにぎわっています。こんな伝統を支えるのもそこに育った町の人。神輿の担ぎ手、若い人がその町を愛し、繁栄をもたらすことでしょう。そろそろ夏祭りのお囃子が聞こえてきそうです。（編集 西岡）